



チューブそり遊び

梵珠少年自然の家

1 活動のねらい

- ・冬の自然の中で活動する楽しさを味わい、自然に親しむ心を育てることができます。

【教科への対応】 小学校：体育など 中学校：保健体育など

【組合せ可能な活動プログラム】 スノーシューハイキングなど

2 活動の概要

自然の家のスキー場跡地などに作った専用コースでタイヤチューブそりに乗り、滑走を楽しむ活動です。

(1) 人数 80人以内

※一度に実施できるのは40人程度のため、

他のプログラムと組み合わせて実施することが望ましい。

(2) 対象 小学校3年生～中学生・高校生

(3) 期間 1月上旬～3月上旬

(4) 時間 1～1.5時間（説明10分＋活動50～80分）

(5) 場所 自然の家スキー場跡地

(6) 経費 無料

(7) 指導 実施方法等について、自然の家職員が説明（直接または間接指導）を行う。



<活動の様子1>

3 準備物

団体	救急薬品
個人	帽子、手袋、長靴、冬の野外活動にふさわしい服装
自然の家	チューブそり（大、小）、ヘルメット（Lサイズ、Mサイズ、Sサイズ）、スコップ、無線機（8台）

4 引率者の役割分担

役割名	内 容
代表責任者	1名。全体の総括、指揮、連絡にあたる。
スタート・ゴール	2名。スタート係は、ゴール係から安全確認完了の合図を受けてスタートさせる。ゴール係は、チューブそりがゴールしてコース内の安全が確認できたら、スタート係へ合図を送る。
用具担当者	1～2名。自然の家から貸し出す用具類の管理を行う。
活動支援者	数名。子どもたちの活動を支援し、安全と事故防止に努め、緊急時に対応する。



<活動の様子2>

5 活動の流れ

	内 容
説 明	・服装（防寒着・帽子・手袋・ヘルメット）、チューブそりの扱い方及び安全な乗り方について説明 ・ゴールした後の待機場所までの登り方と待機の仕方について確認
活 動	・スタート係の合図で1人ずつ滑走を行う。 ・チューブそりのゴールを確認して、ゴール係はスタート係へ合図を送る。 ・時間まで、楽しくそり滑走を行う。 ・終了時には、待機場所で人員の点呼と安全確認及び貸出物品の確認を行う。
まとめ	・ふりかえり ・借用物品を返却（無線機は事務室へ返却）

6 実施上の留意点

- ・実施にあたっては、引率者が自分の目で事前にコースを確認することが必要である。
- ・ゴール後チューブそりを引きながら待機場所まで登ることになるが、相当時間がかかるためチューブそりは2～3人で1つの割合で準備する必要がある。
- ・移動時には、雪の無い場所でチューブそりを引きずらせないようにする。

7 安全に実施するためのポイント

- ・荒天時は中止する。
- ・活動支援者はコースの修正が必要な場合、スコップで整備する。
- ・スタート前に参加者の服装とヘルメットの装着状況を確認する。
- ・スタート係とゴール係以外に、飛び出しやすいコーナーには必ず引率者を配置する。
- ・気温が低く、コースがアイスバーンとなっているときはスピードが出るので、スタートを下げるなどの配慮をする。
- ・2人乗りは原則禁止とする。
- ・ゴール後、待機場所まで登ってくるときに、チューブそりを放してしまう場合があるが、遠くまで落ちた場合には、引率者が回収する。



＜活動の様子3＞